



【短歌】

楠瀬 兵五郎 選

寒風の吹くなかな始めし袖子剪定桜は咲けどいまだ終らず  
 確かなる芽吹き願ひて馬鈴薯を植ゑゆく土のほころぶ畑に  
 妹と幼き日々の思い話を話して過ごす茶房の隅に  
 春の色未だも遠し粉雪の舞う樽原に移り来れり  
 思いがけず新春に貰いし短歌の賞を亡き夫に読む大きな声で  
 老い先を思へど答ありはせぬ夜来の風雨激しきに覚めて  
 ボランティアの楽器演奏う音高し地域ふれあいの弾むひととき  
 覗るる御在所山に黙礼し急かす子犬に朝引かれゆく  
 「気持ちいい、今度はあんたよ」柿の木に番ひのメジロ羽繕ひして  
 何よりも安全だよと添書きし緩く巻きたる白菜送る  
 海鳴りのごとき風音親しともかなしとも聴く峡の夜の更け  
 支笏湖の湖面の青をのみ込みて氷ドームは煌めき放つ  
 菫生路も黄砂のベールに閉ざされてひねもす消えず里は暮れゆく  
 梅白く咲きさがる朝塀に沿ひ電車ごっこに孫と遊べり  
 まだ慣れぬエアロバイクに乗る吾はぎくぎくとしてまるでロボット  
 新設のクジラドームに降り立てりよその駅かと見上げて笑う  
 風景を称えし人は多けれど老いに険しき冬山の故郷  
 風荒き畑に草を引く息子無理はすなよと言ひて帰りぬ  
 車のキー閉じ込めたるを開けくれし人ありまさに雲辺寺御利益  
 四十万十川の菜の花の道に通いたし心はいつかドライブ気分  
 草引けば土の中なるてんとう虫色鮮やかなままに寝ねをり  
 春めきて窓を開ければ桃の花朝日に映えてひな飾る部屋  
 志ありて都会に出でし息よ四十余年の一喜一憂

坂本 好  
 谷内 務  
 公文 千恵  
 岡村 和躬  
 吉本 悦子  
 大石 綏子  
 門田 明子  
 北村佐喜子  
 公文 正子  
 高橋 章  
 竹村 咲子  
 武内 弘子  
 出原 久子  
 古川 安子  
 松中 賀代  
 杉本 桂子  
 森本 幸美  
 池内 松美  
 高野 和一  
 小野寺朱実  
 小原 子川  
 高野 澄子  
 門田 喜美

七五三知らせの幟はためきて杜は静かに子等を待ちある  
 嫁や娘に代り代りに世話をうけ前立腺の癒えて帰りぬ  
 ひさびさに帰りし吾子は手みやげを祖父に供へて近況語る  
 庭桜ゆすらうめの花木瓜の花わが家の庭は木の花盛り  
 藪椿落ちて耀ふ路の辺を好みて歩む夫の墓まで  
 我々のうどの店も賑わいぬ外は雪舞う、ふれ愛かたじけなく  
 吾が歌を読み問ひくる人らあり肩のいたみをこもごも嘆き  
 広き部屋真白き布に画きたるフラフの武者の凛々しき姿  
 世に在ればいくつになるか夜の床に吾が娘の齢を指をり数ふ  
 朝刊をとらむと出でし門の外白々隣の彼岸のさくら  
 田に畑に人は動きて人の声聞ゆる春の彼岸過ぐるころ  
 閉ざしてより疾うに十年眼科医の屋敷に消毒液まだ匂いおり  
 飢ゑに耐へる冬の鴉ら川に来て足ぬらしつつ何を啄む  
 戦いと子育てに明け暮れし昭和過ぎ漸く八十過ぎて平成平和  
 ランドセルまだ背にあまる学童の「こんにちば」の声寝て思いおり  
 鬼になりおどかさ娘に幼子は豆を握りて泣きつつおびゆ  
 ひとり居て特攻隊の歌を口遊む六十余年のとおき思い出  
 うす紅のしだれ桜咲く吾の庭寄りて眺めて離れ見飽かず  
 目白数羽上に下にと飛びかいて千両万両の朱実はやなし  
 孫達に仔犬の名付け頼まれて「まり」と皆呼び家族となりぬ  
 輸入食ギョーザや鯖に農薬が吾らの暮らし今に見直す  
 夕さればひしひしと寂し奥津城は移しこの山に相らはおはさぬ  
 いのち得て新装なりし予岳寺の大鐘をつく九十四歳  
 予岳寺の鐘楼堂は陽に映えて仰ぐころにしむる鐘の音  
 うら側ともおもて側とも思はねど美しかりき湖に立つ富士  
 蜜を吸ふよろこびの声花つづる中に目まぐるし緑の鳥の

有沢 泰子  
 小松 隆之  
 山崎 貴子  
 山下 弓枝  
 法光院俊子  
 宮地 亀好  
 小野川恵仁  
 森本真理子  
 田村 房子  
 坂上のぶ子  
 都築 初代  
 佐々木真里  
 小松もとみ  
 山崎 緑  
 竹村 稔美  
 尾立 かよ  
 竹村 松子  
 森 晶子  
 横田直加子  
 古谷 由美  
 伊藤 清子  
 大岸由起子  
 鍵山 みつ  
 大石さち子  
 佐竹 玲子  
 楠瀬兵五郎

※俳句・短歌の応募は、企画課内広報委員会事務局まで。

香美市立美術館

# アートの窓



## 「大坪美穂展」うぶか「境界」

5月17日(土)～  
6月15日(日)

今回は、東京在住のアーティスト・大坪美穂さんの展覧会を開催します。

大坪美穂さんは、1945年北海道室蘭市に生まれ、1968年武蔵野美術大学油絵科を卒業後、個展を中心に国内外で作品発表を続けています。

2006年1月に、私は東京の画廊で大坪さんの「黒いミルク」という作品に出会いました。白い壁に囲まれた空間の中で、黒い作品群の強い存在感にまず圧倒されました。イスに装着された黒い衣服、床面に積まれた黒い布玉からは、それらの衣服を着ていたであろう人々の生きていた年月と、いつかは訪れる死の瞬間を凝縮したような、計り知れない重量感を感じました。

同時に、ふだん私たちの意識下に隠れている「生と死」の問題を、不意に目の前に突きつけられ、大きな衝撃を受けました。

今年1月の中旬に大坪さんのアトリエを訪れ、制作途中の作品を拝見しました。アイルランドの女流詩人ヌーラ・ニー・ゴノルさんの詩「イムラム（航海譚）」から発想を得たという新作が、7メーターもある

天井から吊り下げられていました。平和への祈りをこめてつくられたという紙漉りを無数につなぎ合わせたものでした。また、その下に置かれる予定

の布玉も、古着を黒く染めて裂き、それを巻きつけて一個一個思いを込めてつくられています。

今回の展覧会のために、気の遠くなる程の時間をかけて準備された作品が、会場いっぱいに並びます。展示室の空間全体をひとつの作品として構成された今回の展覧会は、皆様の驚きと感動を呼ぶものと思います。ぜひ会場におこしください。ご来館をお待ちしております。

(館長・北 泰子)



▲「黒いミルク」2003年制作

## 図書館だより

市立図書館



### 第50回

### 子どもの読書週間

#### 【期間】

5月12日(月)まで

※4月23日の「子ども読書の日」から「子どもの日」をはさんで3週間

#### 標語

「こんにちは 新しい本」

移動図書館がやってきます!!

(本館、香北分館、物部分館)

お休みしていた移動図書館が、「子ども文庫」と「子ども、成人の文庫」をはこんできてくれます。読書週間にたくさんのお本と出会いましょう。巡回日時や場所は、各館で掲示、チラシ配布、図書館だよりでお知らせします。読みたい本、借りたい本をご自由に選べますので都合の良い日に各図書館へおこしください。

## 1冊 おすすめの

### 「ブルータワー」

(著:石田衣良/徳間書店)

裕福で美人の妻を持つ男が、妻とは気持ちが離れていき、悪性の脳腫瘍になり余命わずかとなる。絶望を味わう中で病気による頭痛が不可思議な体験をさせる…。そこでは、頭痛のたびに二つの世界を行き来するうちに彼は命をかけて行動を起こすことになっていく。

少し落ち込んでいるときに読むと奇跡的な最後に少し救われた気持ちがすると思う。

おばさん2(土佐山田町)

